

## 学位論文審査の要旨

|           |  | 要 旨  |
|-----------|--|--|
| 学位申請者     | 岐部 智恵子<br>【人間発達科学専攻 平成25年度生】   |  |
| 論文題目      | 父親の抑うつ傾向と未就学児の社会情緒的問題傾向<br>-日英比較による発達精神病理学的検討-   | <p>本論文では、本論文では、未就学児を持つ父親の抑うつ傾向の子どもの社会情緒的問題傾向への影響性について、日本と英国の家族から得られた属性一致サンプルによる縦断データを用い発達精神病理学的観点から検討をおこなっている。</p> <p>審査委員会では次の2点を高く評価した：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>世界的にも希少な父親の抑うつの幼児期の子どもの発達への影響性について、日英の属性一致サンプル法にて抽出された縦断的な世帯調査のデータを対象に分析された国際比較研究であり、文化普遍的な関連モデルを提唱したと同時に、文化依存的な関連過程の相違についても示唆が得られていること</li> <li>子育て期の父親のメンタルヘルスとその家族への影響性への注目と早期介入の重要性を実証的に導き出すことに成功していること</li> </ol> <p>審査の過程では、論文中に提示されたモデル間の整合性や統計的解釈、論文の構成についての疑問点および修正点も指摘されたが、その後適切な修正がなされた。平成29年2月8日（水）には約30名の参会者に対して、申請者の発表をふまえての討論がなされ、仮説枠組や問題設定、サンプリングの妥当性などに対する質問が出された。これらに対する申請者の応答は的確であり、満足すべき結果を得た。</p> <p>公開発表後に行われた、主査菅原ますみ、大森美香、上原泉、石口彰、榊原洋一の5名の審査委員により最終審査を行った結果、公開発表ならびにその後の最終試験における質疑応答にも満足すべき応答が得られ、申請者の研究に対する理解力と学力が十分であるものと判定された。</p> <p>以上の結果から、本審査委員会は、本論文が人間文化創成科学研究科の学位、博士（人文科学）、Ph.D. in Psychology に値するものと全会一致で判断し、合格とした。</p> |
| 審査委員      | (主査) 教授 菅原 ますみ   |  |
|           | 教授 大森 美香   |  |
|           | 准教授 上原 泉   |  |
|           | 教授 石口 彰  |  |
|           | 教授 榊原 洋一   |  |
| インターネット公表 | <p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p><input checked="" type="radio"/>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p> |  |